

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

JAPAN



池清

繪本西遊記二編卷之七

池清

金木垂慈赦小童

結綱那國王三國師乃死亡也。成傷歎洞止。行者殿前
進高呼曰。陛下怎麼。妖奈小昏亂深。要。
見放著三道師屍骸一個。虎一個。鹿一個。羚羊。是原
未成精。山獸。假小道士。在此。陛下。成害。故
謀。氣數。象。故。小敢。手下。僧道。破滅。佛法。亡。是其顯證。今二年。月日成送。
陛下。氣數。喪。他們。為。小性命。受害。江山。妖魔。
小奪。我们。此國。小。妖邪。除。國害。赦。六
大。幸福。快。遂。蒙霧。僧。招回。政。

門號 2300
卷 40-17

正ノ萬民を按撫ノ事理を參りて練いまとるも國王初はじて悟さとつ
深ふかく感謝かんしゃす。曰朕ちし不明ふみやう。妖邪ようや乃爲小惑こくわく。禰ね國
を失うしなく。せよ。小天聖僧せうそうそうを來き。國害こくがい除のぞ。敢あく謝あ
もう小所こくわく。急きゅう小大師おだいし。小命おみめ。唐僧とうそう徒弟とでいを智測ちそく。寺てら
送おもてなつ。種たね々たね小醉おざけ。其衣きぬ。寺てら。小安歇おやすみ。次つづ日五更ごご。小國王おこくわう。朝あさ出で。官人くわんじん
小旨こじ。傳つた。快こころ。僧そうを招むか。同とも。傷文けいぶん。四門よもん。各路かくろ。小張おひら。殿上どのじょう
小筵さや。宴うたげを設おき。駕こしを擺あふ。智測ちそく寺てら。小いより。三藏さんざう師し徒と。續つづ。了りよう
殿中どのじゆう。小同こども。歡喜かんし。真宴まんえん。左さ。閔文みんぶん。右う。也よ。三藏さんざう。師し徒と
大不悅だいふえつ。別べつを告おほ。立た出だ。ふぞ。國王こくわう。皇后こうごう。嬪妃ひひ。左さ。右う。兩班りょうはん。文
武是これを送おもてな。朝門あさもん。出だ。是これより前まへ。那行者なぎょうしゃ。小脫こだつ。金きん。五
百五百。和尚おうそう。僧そう。餓お。まよ。傷文けいぶん。掛か。

悦へ連々城小同とさり。路上ふ跪丸三拜ノミ。參天大耶。行くと
称ヘ我亦是沙難ノ上か。脱余ノ恩を蒙ガ。僧人ナリ。支知
小大聖妖孽を掃除。我亦を救ひ。難有きよ頬。くも毫毛が納
ウヌ。口頭アヤシム。行者アリ。毫毛を納。君臣小對
曰。這和尚们妖方。小役せ。自己が死。向。及老孫前。小
赦ひ。うち兩個ノ妖道を走死。向後再び胡爲。アリ。小
惑。子信を守。三道を祀。一致小帰。僧を敬ひ。万民を育。國の
長久を織。アリ。誠。國王感謝。小不棄。終小別。城を出。アリ。
ス。三藏ホ。口。官路を急。だ曉。小行夜。小住。渴。アリ。
飲食。て。も。浪。行程。小春。多夏。残。アリ。秋。壳。天。小至。冬。アリ。
一日天色已。小晚。急。鹿僧馬を。勒。日。往。弟。ホ。天。已。小晚。アリ。宿。

或乞乞乞人家、あゝざまうり行者戸か雑ノト曰。此辺までゆき嶮峻
かゝく使小一軒ノ人家もあらず月光小乗ノ今一程まぐく人家
あり所ふ至りて宿を要ひひと師徒是よりて没奈何よ行者
小隨ひて行と幾テもあゝざまふ只叟痴、浪々响く声ありハ戒
僧曰罷了々々路是よりて事より是之一般の水撞テ。唐僧曰
是生々比川を渡るべれハ戒ケ曰我先此川ヲ淺深を試ノ三藏曰
汝歎子亂統を休よ這川ヲ淺深如何ノト知テ戒はしハ戒が曰我
一个石頭を拂ひ未だ是を河乃當中へ抛テ。水乃泡起と見ハ
是浅アリ骨都々々沈む声あり内も深。行者亦まゝい渾草
拭よハ戒路旁ノ石頭を拾ひとり水中が望ハ拋込多ふ只叟骨都
沈ムハ戒是を度テ深アリ。又々帽參アリニ藏が曰汝川

唐僧師徒到天河

到通

天河

三藏

悟空



行者曰。ナリ。是漢人あるし我往。他向きと鐵棍を把
テ跑到アリ。是入ふ。あ。一面石碑あり。碑上に三個の
篆書。大字あり。下小両行。十字の小字あり。三個の大
河とあり。小字。経過八百里。且右左行人とあり。行者ニ藏を呼
ミ。是を取とる。三藏。一日。又。渡を。當年。長安を出。より只
西天。小行く。經を。取して。あり。或ハ妖ナ。ふ。阻られ。或ち山水の遙
處。う。小禱。百辛千苦せ。ふ。今。また此所。ふ。到アリ。渡る。手段
小。多。是ハ何とせ。と。憂ひ。岡ゆ。折。幽。ふ。敲錘の音。は。そ。
八戒が曰。ナリ。ふ。是人。家あり。と。敵を。做と。覓。い。さ。也。俱。小寺。も。そ
す。と。さ。ふ。敵。を。續宿。を。も。借ん。と。勧。も。師徒。是。ふ。日。再。ひ。進行
些。ふ。食飯。を。續宿。を。も。借ん。と。勧。も。師徒。是。ふ。日。再。ひ。進行
小。一。ワ。正路。あり。四衆。大。り。小。力。を。る。漫。く。よ。砂灘。を。と。だ。と。望。い

凡れく是地一簇乃人家四五百軒斗あり。三藏馬を下す。路の頭
う家をぐら小門外か二首の幢幡を建燈を煌々。香を齋
三藏悟空を顧て曰此所山凹河邊小比丘を辭へ簷下小寐。うの
冷露を遞り放心穩眠。う矣。汝亦是小待我先り。う。宿を永
きまし。が。昔く我を住む汝を嘆く假若不留。もの汝们撤瀝
より。汝ホク臉嘴醜露み。や。恐くも人を號す。ま。禍を引出
一往もう所かうん行者領掌。一師父先行。我們這所。まく待
廬。三藏遂小室を詩錫杖を抱て。往小人家の門外小到。まく
門。至向け早ハ掩す。三藏敢く擅ふへ。す。節玷むと。う。小裡より
一個の老人えり出る。其駄項下小珠數をうけ口小阿弥陀佛を念へ
自ら。う。戸を開くと。す。三藏急。小合掌。一高く。呼。曰。老施主。三

待々、貧僧同到。老者曰。汝きよる今些一遲と三藏
其理をあらず。怎磨絶小いやと向老者。曰。まよ。遅たゆ。小物
若早にきよも。我舎ふねあり。僧衆もぐく飽む。飯を吃
其上小熟糸三片。白布一端。銅錢十孔。乞を施せり。三藏躬身。曰
貧僧も是を乞ふ。逢ふ事あり。かくす。是も東土大唐の欽差
やく西天小至。經をとも僧をも。今。這里ふきよ。天色已下晚。
多う小宿。がた家わぬ。幸小鼓鉦。声をも。特まつて一宿
を繕し。為なり。老者手足搖。曰。和尚は出家人。似げなし。難病を
り人。東上大唐より我北里。ひづら。五萬四千里の路あり。第
ふ草身ふ。奈何。来る。三藏。曰。老施主の言理あり
徂。一貧道草身。三個。う。小徒。あり。山ふ。逢ふ。路を開き水ふ

遇く。も。搞を。立。貧僧。方。保。所。小。未。き。老者。口。己。ふ
徒弟。ある。何。口。來。あり。玉。き。我。舍。小。安。歇。所。あ。三
藏。悦。頭。を。圓。處。來。きて。呼。ふ。そ。行。有。原。來。性。急
たり。八戒。祖魯。沙僧。生。得。恭。壯。ち。れ。三。個。師。の。声。を。少。と
ひ。一。馬。を。牽。担。が。挑。著。一。陣。の。風。の。内。が。ま。う。未。る。老者
此。後。を。乃。く。號。る。一。跌。倒。き。妖。姪。來。き。余。を。救。と。呼。う。も。め
三。藏。是。を。挽。起。一。日。絕。主。怕。き。ま。よ。是。妖。怖。ふ。あ。う。ぞ。我。徒
弟。か。う。老者。曰。這。般。好。師。又。小。怎。磨。ま。と。此。す。ふ。醜。た。徒。弟
を。將。き。く。と。戯。き。競。を。向。され。バ。三。藏。答。曰。人。ハ。相。貌。小。よ。す。這。三
人。の。徒。弟。皆。神。通。有。と。龍。を。降。虎。を。伏。妖。女。を。捉。る。る。袋
う。物。を。探。う。是。小。因。貧。僧。遠。北。里。ま。く。来。う。よ。然。は。ど。う

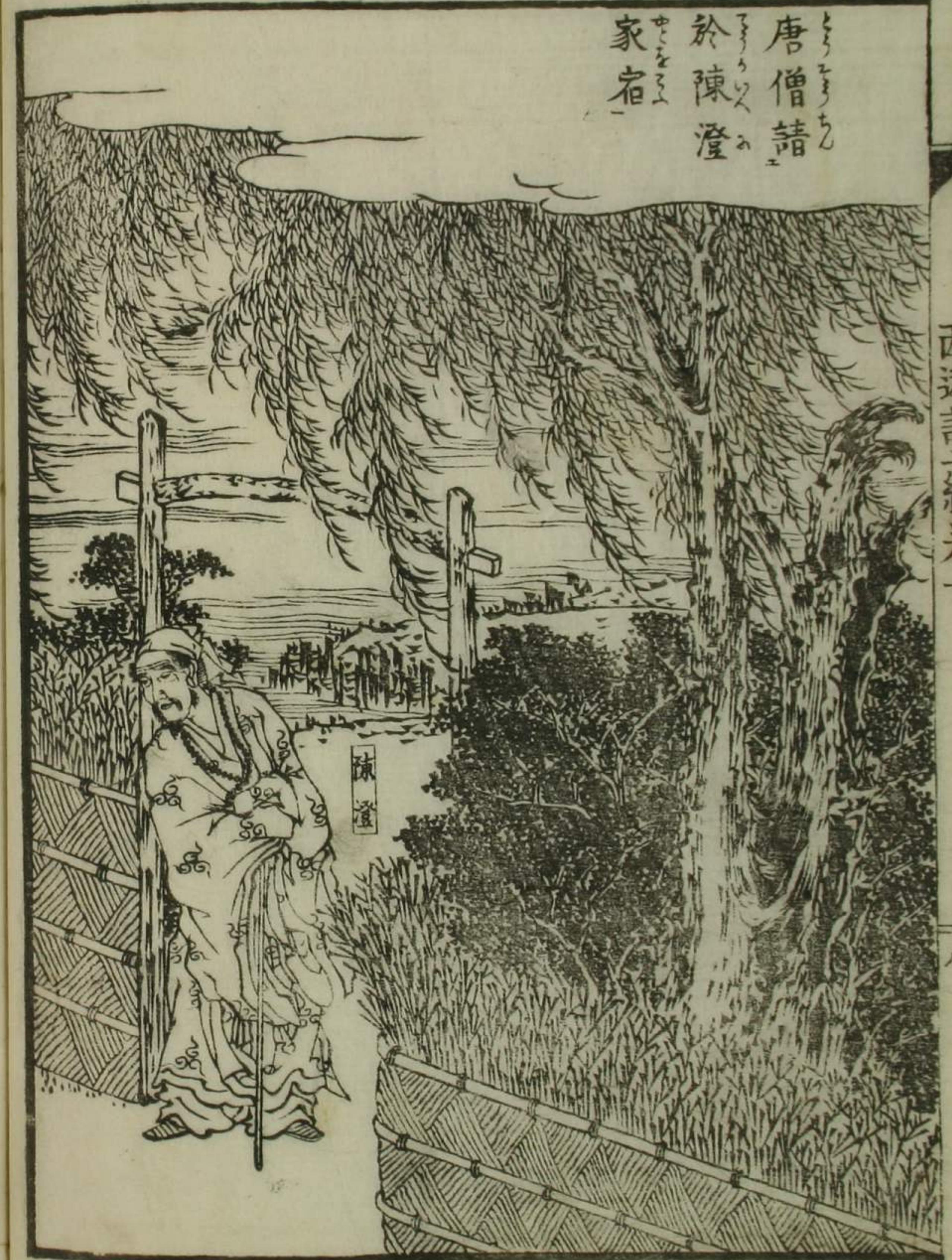
老者曰。半疑半信。先唐僧師徒。裡小入。行者八戒。馬
拴行李。丢下。廳小至。到。小幾。今。僧經。念居。
行者八戒。汝僧。進。走。打。衆人。恐。悞。通跑。
花燈。踏倒。經札。踰散。你頭撞我頭。久。胡告架。不
風。荒。小異。三人。是。思。嘻。哈。笑。藏。喝。
曰。這。禿。頑。先。老。施。主。孩。今。又。老。和尚。號。倒。
却。我。小。罪。与。言。行者。理。伏。主。翁。向。禮。
老。爺。我們。無。禮。繞。圓。早。花。燈。了。花。佛。了。
將。收。老。者。此。言。小。心。安。童。僕。呼。大。點。
行。者。八。戒。見。妖。怪。逃。入。多。少。行。者。自。燈。燭。
急。到。此。同。一。個。道。士。出。是。是。何。妖。精。也。同。先。行。

老者曰。那和尚。水。妖怪。大唐。西天。小。到。經。羅漢。
之。徒。弟。相。貌。禿。皆。是。善。人。那。道。士。是。四。
貌。小。礼。一。坐。小。吐。一。坐。童。僕。方。不。怡。至。茶。奉。
手。多。擺。曾。待。四。個。多。罷。後。三。藏。老。者。向。老。施。
主。高。姓。何。称。老。者。白。姓。陳。氏。三。藏。貧。僧。姓。
八。凍。氏。拔。今。何。每。老。者。老。者。是。預。七。每。脩。
三。藏。是。何。亡。每。二。個。老。道。士。多。小。淚。流。而。曰。
長。老。父。我。這。里。一。吐。靈。感。大。王。廟。大。王。年。耳。兩。
施。慶。雲。降。五。穀。豐。饒。技。是。正。神。是。正。神。供。一。年。
次。祭。寶。小。童。男。童。女。牲。體。供。吃。好。是。是。
供。我們。保。雨。調。順。小。若。供。我們。禍。降。

一害を生むと今年我舍輪到ゆ。想てたま老拙を陳澄と云ふ。今六十三舍弟ハ陳清、五十八歳我止生乃一女縁ゆハ未名を一秤金と。舍弟乃止男の一男絶ふ七才。名を陳園保と呼ぶ。一人の子今夜大王乃廟へ牲禮小出一石流石恩愛の情捨てて。孩兒ホと与ふ個の超生道場を。預り亡命を修へひてうど縁る裡より涙雨つゝ声を呑く。伏す。三藏も此言が更に涙を不仕衣の袖を走りぬ。行者曰老公沙り府上小多きの家財あるし。老者答へ曰些ア家宝あり。水田旱田三百頃草場九十處。舍下小不吃ノ糧。若干ア衣服銅鏡あり。行者曰己小斯の。富豪ナハ何ぞ。兩個の童男女を買。祭小寶ざる。二老とも哭て曰。和尚チ子細を知ふ。那大王甚了。靈異シ。平素我們が家小来通ひ。我們が後兒を見たり。行

者曰他來通ふ甚麼。暮様ナ。老者曰。あざ其形を。只一陣ア香風を吹。是大王ア來ゆ。ナリ。依テ忙ノ香を焚ク。礼拜を。他紫ガ一家の人等を。個々小懃る。殊ふ親生の兒女を要。吃ノ。予を望む。假令買。要。も一般の貌ノ者を。ほん。難。行者曰。我。ナ。旨あり。汝。童女。抱た。來つ。我。小。看。ナ。自。手段。あ。之。陳清。何。ナ。ハ。知。され。と。房内。小。今。陳園保。を。抱。ナ。ト。廳。上出来。小。児。ナ。れ。今。先。ナ。身。も。ち。墨。子。を。拿。毛。を。弄。ノ。金念。ナ。行者定。と。足。身。を。搖。と。よ。と。足。毛。が。忽。ち。斐。ノ。ト。園保。模様。と。ナ。兩。個。燈。ア。前。小。在。テ。挺。び。戯。ナ。之。八。食。之。二。振。の。社丹。ア。咲。出。一。小。異。ナ。ズ。陳清。大。レ。小。や。う。た。和尚。何。カ。我。孩兒。と。一。般。姿。ナ。か。う。り。願。ナ。本。相。現。ナ。タ。ト。行者。声。小。應。ド。木。相。

唐僧譖
於陳澄
家宿



を現り一向日。今汝像汝う愛息と違つてや否や。陳清う曰更少分
毫も違へ所なし。行者う白金を我汝が孩兒小替りと牲體と
ケモノハ如何ふ。陳清大りふ悦び跪下頭を叩く曰。和尚慈を垂て
我孩兒を牧ひて香烟後代ふと白銀一千兩を唐僧小献玉盤纏
とケタニ西天か往き使とせんと銳羅び又磕頭して只管小歎き
懲む陳澄を只黙然として柱小倚て愁蹙して洞を流一居
より。行者進み向す。老爺汝も女兒を痛哭う。陳澄急小跪下
曰。禹望我女兒をも放ひて。行者う汝憂る勿れ那嘴の長た和尚
尚を変へ汝が女兒とテ兩個の命を放ひはせんハ成是を要
大の驚を曰。哥々汝左も右もせよ我ハ代身となりて吃ひんす
を要す。我決々不背。行者曰。汝原来三十六般の變化あり

怎麼を不會さるや。三藏笑アハ戒ふ向ひ。行者うア人々の性命を
一枚う十級の浮屠を造ふ勝ま。右も左も女兒の命を放
てと貴をな。行者陳澄小向ひ。汝が女兒を抱だきしれ。今付る。陳
澄急小裡小今一杯金を抱だ廳上ふ出る。其後ふ就く一家の光
幼男女都く出きて磁頭ア礼拜。一杯金も果子を吃て余念
ナ。行者ハ戒小曰。汝快く爰じく此女兒の摸様とかれよ。ハ戒已
もを娘と兒縁を命一頭を數度搞す。稍矣向く娘の摹様
とちる。娘の面月頗る脛大りく像同じ。行者曰。汝今一
度麥ド替よ。ハ戒も左右も妻一替クねども益似はぬ。ま行
者亦麦ド替よと責め。ハ戒汗を拭ひ頭をうな。哥々只以役と競
せ我如何小麥まれも是トロハ不成と辞退す。其内行者一口の仙氣

を吹き出だ。八戒が身再び變り女兒の像と一般となりて行者陳氏兄弟小向ひ。汝は童男童女を將へ隠れ居よ。さうやう今我らを怎麼ゆく。那大王が獻しちや陳澄旨。兩個の紅漆の盤小二位を緒そ坐せり。兩張の桌の上に置。抬ぐ廟裡へ到らん。八戒が曰。我ハ是假小代身となれど吃食を許さず。不肯行者笑ひ。曰。他先我を吃を脅迫を汝へ先へ逃回し。八戒推返。曰。他リ。我を先へ吃ひ。又如何ぞ。陳清が曰。前年大胆の者ありて廟裡に來よ。是洞乃ふ。他先童男を吃ひほな童女を吃ひさせり。八戒皮を少一匹を安んじ。造化へとりひく。願う。两个乃紅盤を取出させ。一張の桌の上に直す。兩個其上に坐む。折つて外に籠の羅鼓天小喧。燈火照耀。前門を半開。陳清兄弟快く童男童女を

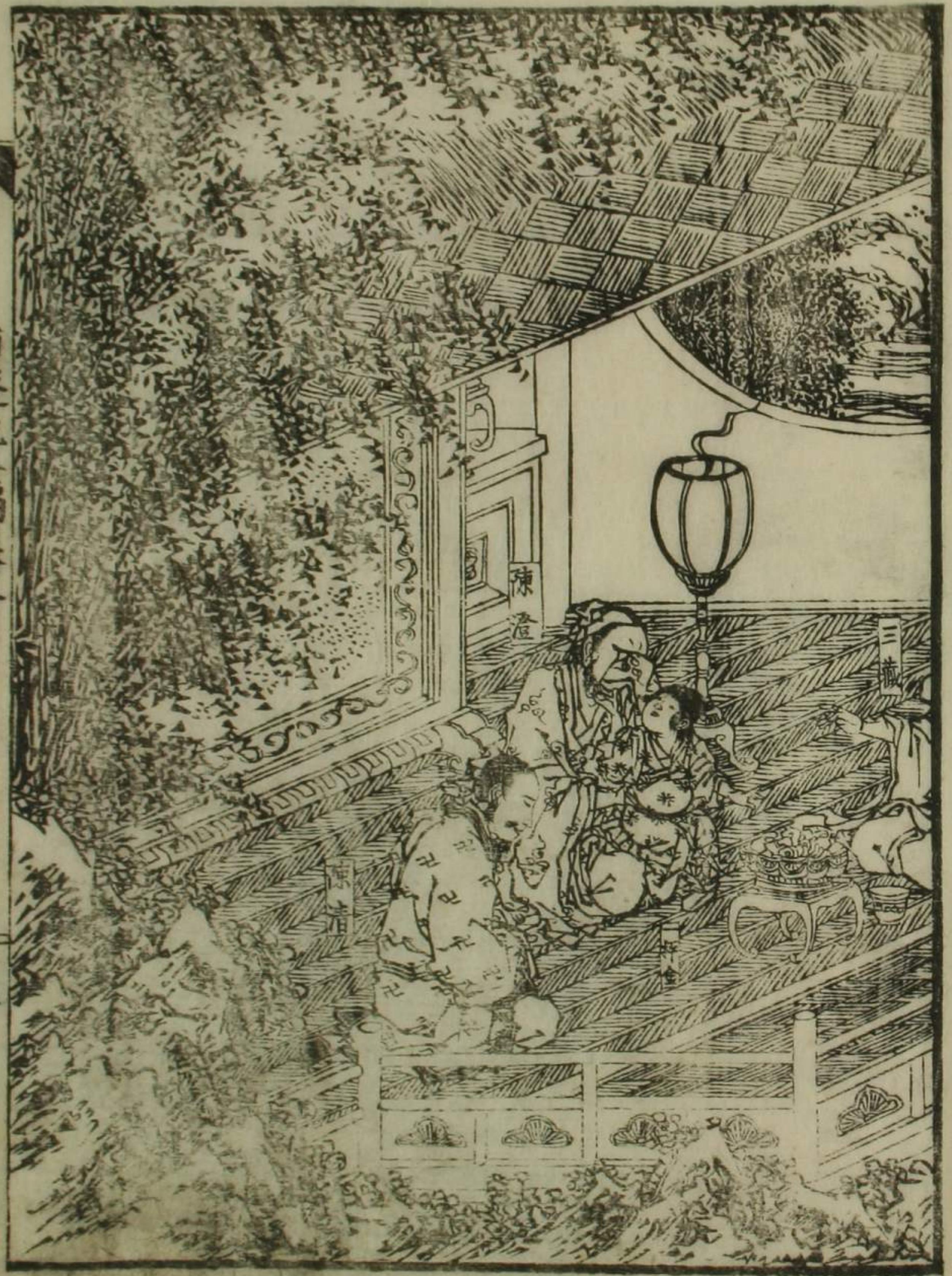
抬出せと口々か叫ぶ。是。這里の者どもが牲禮を供せん。來見る。老者兄弟八泣。二人を抬出。一

魔再寒風戰大雪 僧思拜佛履層冰

絶縁陳家の二老衆人とも。小童男童女及び猪羊の牲を抬ぐ。鑼鼓を。喧々嚷々靈感王の廟の裡へ到る。先兩個の乘。紅盤を上首小供へ。桌を下へ。盆。盞。香を炷燭を點む。行者頭を同。看ねた廟の正面小金字小召。牌位あり。文字ハ是靈感大王之神と写せり。同小衆人。每小頭をり。地を磕む。曰。大王爺。今年今月。今月乃祭主陳澄。陳清亦例歳。重男隸保閑童女一拜。金其余の供物。少く。數の。下く。奉上。大王願。是ホウ牲を受用ひ。風綢ひ。雨順ひ。五壳の豐登と護

王太と祝罷衆人速々も刀斧すゝ回去ね。八戒人きり散る成りて
行者小向ひ衆人己小回去まう。我們家へ回らばな。行者白。汝が家
那里小あらや。八戒が曰。陳氏が家ふ行く睡らん。行者喝そ曰。汝獸子又
乱終を吐う。己ふ大王小吃まんと代身小なり。者。其始終を
も尽す同く。他後小災を降し害を貽さん。とつ言まざ終らず。一
陣の腥風吹きまよ。八戒ちやうた。是必と那大王の来るちう。あらし
行者急小刹。汝必と言縕とからん。我他と貌縕を垂れと儀き
所ふ。忽ち廟門の外より一個の妖怪來り。廟小入門を鎖固め牲う
兩人小近着問う。今年の祭主は是那の家小あら。行者答へ
曰仰せや。陳澄陳清が家小あら。那妖怪行者が言だまく
心中大り小疑ひ。這孩兒甚く大胆。や言縕伶俐たり。常ふきる供

養の的。我一声を喰ふと言々く再び向む魂を失ひ。己小捉吃ふとおふ
至りてハとあがれ死人の如し。怎麼今日の童子。應對もどうや。行者
遂ひて敢て猥小拿ふ不吃再び向う。汝童男女名を何と称
や。行者曰。童男が名ハ陳保閔。とり童女。就ち一種金と呼ぶ。妖精
又曰。這祭ハ常年の旧規。ゆく今汝木を供獻さるなり。されば我徑
小汝们を吃金なりと罵る。行者臆もる色なし。我亦從來其旨
を知り。大王快く吃。一と雨を順ふ。風を綱。ア。五穀の飪。饑と
守り。那妖精是ホウ。應對を守。亦疑ひ。大喝。曰。我ほひ
童男が先。吃。今年ハ先女児を吃。と號。を。八戒大いに憤
驚た。云す。大王旧例を壞。五を先。吃。之。情なし。我生
稟瘦肉。かく骨堅く。頗る味不好。旧ふ。先童男を受用。一



とくとも妖姫耳ゆり不容易方覗大手を被きしハ戒を捉へ吃つと
八戒今ハ堪いたまる。本相を顯あらわす。紅盤を跳はねて下さす鉢を掣ひきす。妖姫
が背せきを引ひき掛かけて倒たおかへる。妖姫何ぞ驚おどろきうづいた。手足縛つかて逃なげり
只一声乃響音を残せり。ハ戒より顔おもてふすらし。一定妖姫ようひが甲こうの所を撞つぶ
く。りと呼より行者ゆきも本相を露出あらわす。ハ戒を喝あわく。汝獸子あるい短慮きさくな
他ほかを乞こうせり。怎どう麼め何里いかり。是彼かれを看みふ大小の魚鱉うお両
個落散ちり。或ある小妖姫ようひの喝声あわせ遙空とほくう中なか小波なみれ。行者ゆきハ戒續
く空中そらへ跳はね上あがる。妖姫ようひ兵善ひょうぜんをも帶はせず。雲端くも現あらわ。行者ゆきハ戒を乞
く。同多どうだハ汝おのハ是これ那里そこの和尚とうそう少すくなく童男女わらわと雜ざつく。我欲わが歎かなや。行者
大音小呼おおおとこゑ。大呼おお多多く。這漫燈まんとう。我われをもも。是これハ大廣だいひろの僧そう
保ほ。西天さいてん小至ご。經きを取とら。今日けふももす。陳氏ちんしの家いえ小富こめいて。まバ

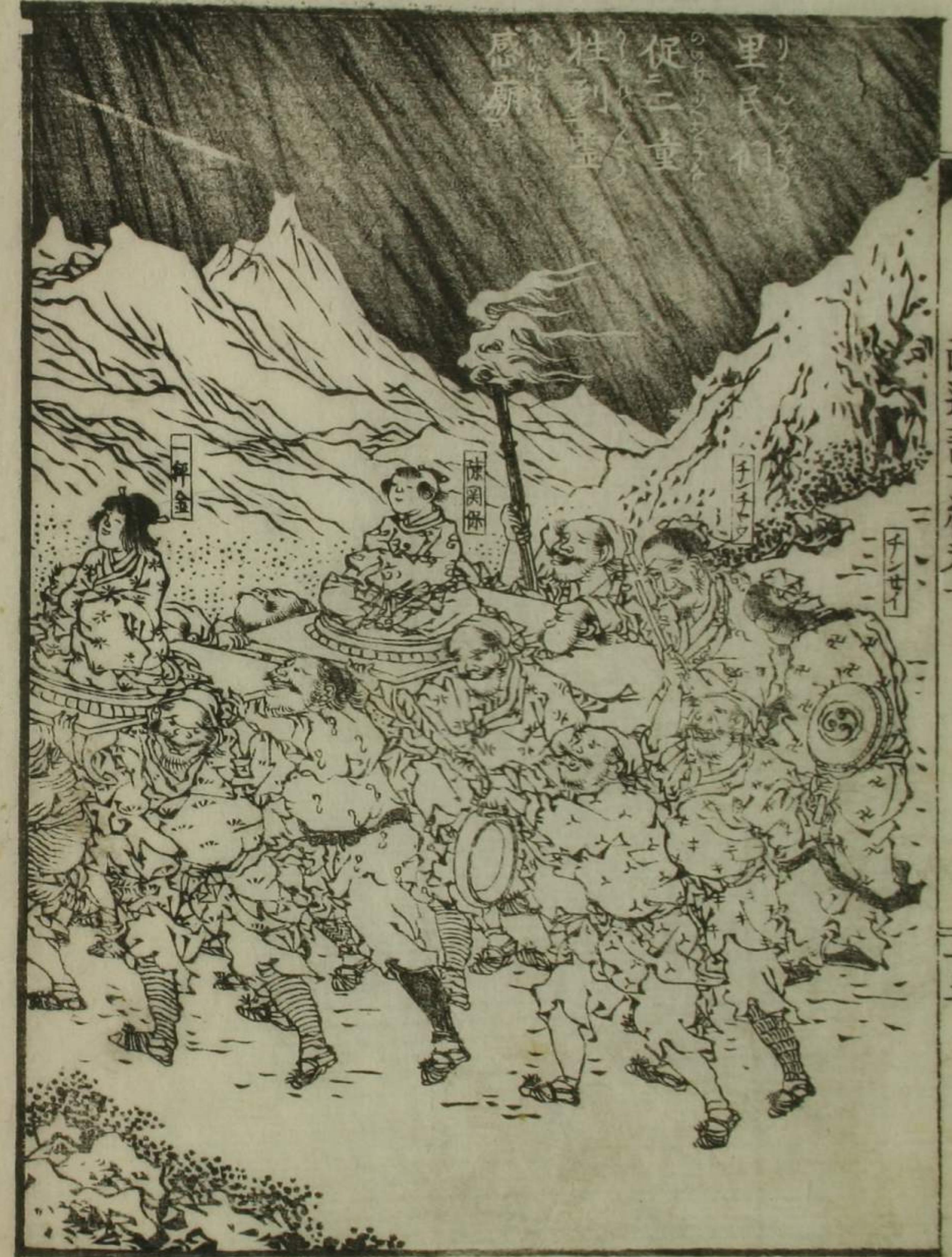
妖邪ようや者もの。假うそ小靈感れいしやう大王だいおうと称いふ。年とし々童男女わらわを要むすへ吃く。
我われ亦慈悲じしの心こころを以う。假うそ童男女わらわが代身だいしんとなり。汝おのが如ごき穀物こく
を捉つかへ。禁きんんとす。汝おの這里そこ小住すむ。幾年いくねん大王だいおうと称いふ。幾千いくせんの童
男女わらわを拿な吃く。一々筈くわと自首じしゅ的てき甘あまく縊くわ。小死罪こしざいを饒じやう。
きんとす。汝おのを更また小像ぞうを立たせす。行者ゆき是これを乍はじく曰いふ。何なんとも合あ點てん也や。並ながり。ハ
他鱗ほかのを遺おせ。以うく。然ぜんで。河中かわ小住すむ。大魚おおさかなの積の。ハ戒賢かいげん
々おお。哥あぶき々おお。待ま。明日あした媒めいを定さだめ。他ほかを拿なへ。安やすく。我われ師し父ちちと
送お。河かわを涉わた。行者ゆき是これ小陸こりく。遂つい小廟ちやう。裡さへ小向むか。那な猪いの羊ひつねと
殊ことら。把つか。陳氏ちんしの家いえ小同ごどう。此こ因いん三藏さんざうハ沙僧さそう陳清ちんせい陳澄ちんとう。

と廳上小布く行者八戒が音信を待ち候ふ。忽ち兩人尋まく同
を見。ニ戒即ち祭賽の子成向ふ。行者那女姫姉の子を一遍統す
陳清兄弟一家の男女大りふ悦び林舗を拂た師徒を續て枕と高
う木と一枚小安寐を却脱那妖精ハ水府小同モ嘿然と憂ひ
乃色面小表は更ふ不言。是小依水府小伺候も多安の小
妖ども不審跪て向うせう。大王例年享祭より同り莫ハ怡
脱の色あり。怠慢今年ハ何う煩脳。乞うある。那妖精曰。當
年ハ祭小臨ぞ些少餘物を持回。你们より賞味させ。今日ハ
我小も曾く吃り能ひど。剰へ性命哉も失んとせーと語き。小妖
トも大り小驚た。怎麼。小也や。と。妖精曰。是東土大唐
内聖僧徒弟ともゆみ西天小行佛を拜。經を求る者也。那徒

第神通有。假小陳氏が家の童男童女とあり廟の裡小呴せ
バ。我至るを乞う。忽ち本相を現。我と敗ま。我冒そ人のつま
みも。那唐僧も十世修行の好人ゆ。他。一塊の肉を。吃は。壽と
延生を長く。不期小他。後事小這般神通の者あり。我
荀も他。小名を壞られ。我兼て。唐僧を捉へ。汝ふと。小
吃ひ。すを要き。那徒弟。亦師父を護る。上ハ。怕。ハ。其。能
き。ソ。リ。幻走。終。一人の班兵。簸波。と。女姫。一踊。ノ。判を
出。大。ふ。笑。女姫。小對。曰。大王。何。難。な。有。但。我。亦。力。盡。
そ。那唐僧を捉へ。と。要。多。何。難。な。有。但。一。我。亦。力。盡。
ノ。ノ。他。を。捉。大。王。如何。大。王。如何。大。王。如何。恩。責。を。大。王。や。女姫。白。汝
媒。あ。く。我。と。力。を。併。せ。唐僧。を。捉。大。王。我。兄妹。と。あ。く。海。と



西遊記二編卷二



西遊記二編卷二

二二一

席を用ひ重く汝を享し。輒度有りて拜謝。終焉云々。
我久しく大王の周を呼兩を喚う神通海を挽き江を翻ひ勢力
あるを知る。並とりども雪を降り氷をむし。街小至り可
會や。妖姪曰。兩個をもて易なり。輒度是をゆう。手
を拍て大いに喜び。大王斯のくの奇術あは。唐僧を捉へん。因
前かあり。妖姪曰。汝武小縛をされ。輒度曰。今宵三更必至ら
大王趣く快く法を行ひ。一陣の寒風を吹起し。大雪を降れ。且這
氷泥泥通天河をしりく。我其中小く變化して幾
個とく人形を作。路上ふく置。包を背。傘を持。車を推。冰
の上を行き。其跡をなし。唐僧必ず經を求む心急か
ト。這跡をか々氷を踏び涉る。必定なり。其時大王ハ河心小坐
一

他が脚跡响を相図。か寒氷を裂く。他亦師弟を。毎小水中へ陷
え。斯のくも。一轍か。擒とせし。何う難だ。う有
く手ふ。把と。述え。那妖姪。満心歡喜。此策甚しこ。效
く。即。岡小水府を出で。長空を踏。相図。一寒風を起
一雪を散。水を結。凍と。子。此岡三藏師徒四個も陳家小
按宿。有。八戒曰。行者。小向ひ。曰。ハ。哥。何と。う
も。寐。有。八戒曰。行者。曰。ハ。哥。何と。う
す。冷。有。行者。曰。汝。子。さ。ハ。不。長。後。を。死
よ。代。者。よ。出。家人。何。サ。の。冷。を。怕。や。三。藏。も。因。よ。さ
す。兩人。結。を。生。往。事。ホ。ウ。リ。根。も。令。る。よ。あ。殆。ど。眠。里
さ。爬。起。衣。服。を。穿。く。屨。を。開。た。四。方。を。見。あ。ふ。早。天。曉。り

空となり只看四方都ア白雪茫茫一寸の地をも残まず。徒
歩小向ひ汝ホ寒さむたる理ナリ。今は秋あきから一夜の中大雪降て
尚震おどろせず紛まぎり前刀玉まつだま偏へん綿絮まくしを飛すふ
似おなれと。師徒委因歎覩居る所小。忽ち陳澄童僕小伞ささ一い雪
を拂ぬぐく路じを用もち湯ゆを持來もたら面おもてを洗あらわと勧め。又女同めぐらて茶と
餅もちを送もたら炉かま小炭こずはをばん挨拶あいさつ一い多たハ師徒叙坐じゆざつ一い茶と
服ふく一いえトナ。三藏向むかさう老施主此里よしハ春夏秋冬しゅんが令めぐら
ちめぐられ。陳澄ちんぢやひゞやなるハ此邊僻いはな地じゆ一風俗人物じんぞくじんぶつハ上國
小國こく一いそぞれ凡一切ごんぜき内うちを到いたまくハ天あまを門もんに日ひ成なるふまれ
あふれあはれ。怎どう四因よしんの理りい曾なま。三藏又曰既き小四因よしん一い乞うを何など今
此大雪降ふス。斯この一い寒氣強さむき。陳澄女めの考かうく曰い。才さい今いま七

月つきよりと虽ま昨日きのうもてふ白露しらねの時候じを交かり。白露しらねハ則そなち是は
月つきの節せきなり。我此里よしハ毎年八月はちづき方頃まへ小至こぢきハ霜雪しやくせつの降ふメあり。三
藏ちんぢや曰い。我東土ひがしう小至こぢハ四月よし一い度どす。那里なほふと冬ふゆの節せき
至いたりて方ま小是まありと結むすつ間ま小平ひら地じ小雪こゆきけりふる二尺ふたし小及
ぬ。三藏是ま然なまと胸むねを擎淚のぞを流ながれ。陳澄其心こころをあらす旅
乃の愁うきを慰なぐと諒じよう曰い。長老じよろう、あす心こころを苦くる。す放心ほらして追苗
ノミ。我舍下すくわサま糧りょうを貯たまり。半年かんげんや一年いちねん師徒しゆとを養いく。共
難ひじりをうながうながす。三藏洞くらわらを取とく。曰い。老絕主らじくしゆハ今いま貧僧ひんそうが苦
ノシ子細こまを知し。我當年唐とうの萬歲まんじの欽差ちんしを奉まつ。西天
小至こぢ經きを求め。長安ながやすを出で。國王こくおう親ちゆう國こく所ところを笑わら。對たい
り向むかひへ。汝な幾いく國こく經きを取とく。國こくへ飯めしと食く僧そう近ちか小山河こさんか



う險あるをあらずをあす。順口小回奏。一冬八只三年の光陰を送り。又
經を取て飯堂もしくして上る。今已小八ヶ年ふ及べどもまづ
佛面をまづ小拜せす。鉢差の限ふ違ひて恐るべく小焦慮ある
なり。今日奇縁ありて貴所ふ一夜の舍をほ思弟ども昼夜の小
技をよりて令息令女を救ひこれを西へ一艘の船を借河を渡
らんとせり。不期も這大雪ふあり幾回続小功をす。故
土小回を成らんやとく只嘗悲歎歎く成る。陳老をめ練り
老爺さの憂ひて天晴氷化をも家産を傾てかうる。河
底より進くせんとひ慰ししうち一僕午食を進てきる。是品
物豊盛。重饗かり。師徒吃一終き。陳老す。雪洞小行。散向
又大。小。筵。宴。を催して。小。大。師。徒。漫。を拂ひ寒さ。心き日

三藏が曰。一切世间のうり。只名利を重んじるか。他們が財利。う爲小
先を忘。す。我。勅。を奉。す忠。を尽。す。只是名の爲ぢり。他と更
小善。之所。か。行者を呼。汝。施主の家。小回。行李を收拾。
き。それ。我。氷。を踏。て西方。小走。し。行者。大笑。聲。を發。て。己。ふ。起
と。も。沙。僧。急。小袖。を。扣。へ。师兄。女。付。待。我。一言。い。す。有。と。渡。り。苗
り。多。必。竟。是。何。が。り。り。や。其。と。下。回。を。見。て。分。解。さ。れ。

池清

